

1. 実況上の着目点

① 近畿地方周辺に500hPa 5820m以下の寒冷渦があり、その周辺を複数のメソスケールの正渦が反時計回りに移動。伊豆諸島近海の気圧の谷の北側を千島近海に中心をもつ高気圧南側からの下層暖湿気が流入し、関東地方内陸からの冷氣層に乗り上げて対流雲が発達し猛烈な雨が千葉県で連続し、記録を更新する大雨。

② 台風第15号から変わった熱帯低気圧が日本海西部をゆっくり北上。これに向かう下層暖湿気が西日本で拡大。日中の気温上昇による陸上の対流雲は衰弱傾向

だが、太平洋側では海上で激しい雨を解析。陸上に侵入している所がある。①の寒冷渦近くでは発雷。
③ ①の寒冷渦から連なるトラフが大東島地方を通過。その後面に水蒸気画像の暗域。300hPa面の高気圧性循環が東シナ海から南西諸島に移り、気圧の谷付近の対流雲の活動は西から沈静化しつつある。
④ 台風第13号から変わった華中の熱帯低気圧は中心が定めがたく、不明瞭化しつつある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の気圧の谷は徐々に西進、関東地方内陸からの冷氣層の範囲は拡大することから、全体としては非常に激しい雨の範囲は太平洋沿岸に縮小する傾向となるが、上層正渦度の作用が強まり対流雲列の上流側の発達度が上がって内陸寄りの千葉市周辺で根強い。千葉県では14日明け方までは引き続き低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、土砂災害に最大級の警戒。昼前まで厳重に警戒。

② 1項②の下層暖湿気の影響する範囲は、千島近海に中心をもつ高気圧の張り出しにより15日にかけて徐々に西へ移動する。一方、1項①の寒冷渦に伴う正渦度域は15日にかけて南北に分離し、循環が残る南のものは日本の南から小笠原近海に進むが東日本を中心に15日まで影響が残る。東北地方では14日は、東・西日本では15日にかけて、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。その後16日には東北地方～西日本の水蒸気量は減少傾向。ただし、これまでの大雨で地盤の緩んでいる所では、普段より少ない雨でも土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。

③ 16日は、500hPa 5820m付近のトラフに対応して低気圧が朝鮮半島を北東に進む。これに向かう850hPa相当温位345～354Kの下層暖湿気が東シナ海から対馬近海に流れ込む。九州北部地方では、雷を伴って激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風に注意。

④ 西日本を中心に15日にかけて高温が続き猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

①雨量(06時から24時間)：関東甲信 150、東海 100mm。②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無

全般気象解説情報(大雨・氾濫・落雷)を05時に発表予定。



主要じょう乱解説図